

令和6年度 学校運営等に関する評価書

学校名	和歌山市立芦原小学校
作成日	令和 7年 2月 14日

1 教育目標

豊かな心を持ち、自ら正しく判断して行動する子どもを育てる

2 学校自己評価についてのご意見

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	・県学習到達度調査で基本問題の正答数が県平均を上回る ・わかる授業、子供主体の授業を実践したと思う(児童・教師90%) ・研究授業一人1実践以上実施	・学校が楽しいと感じる(児童90%) ・「心のとびら」の活用100% ・いじめの解消率100%	・朝ごはんを食べた(児童95%) ・積極的に運動を行うよう計画し、実践した(教師90%)	・学校の様子がよく伝わった(保護者90%) ・中学校区で接続、連携した取組を具体的に実践できた(教師90%)
意見重点目標に対する	[基礎・基本の確かな定着]では、毎年度の定格化した課題であり、特に6年生については、中学校進級に伴う基礎学習の定着は必須であると考えている。	登校に抵抗があると感じる生徒が昨今の課題です。そのため、学校に来ることを楽しいと感じるポジティブな環境を作ることが重要と考えます。	重点目標の中でも「危機回避能力の育成」では、災害など自らの防衛力の育成に必要性において共感出来ます。	こども園と小学校の連携はよくできている。引き続きお願いしたい。中学校との関わりをもっともてれば。地域との交流。家庭数が減っている中、地域との連携は、必須。
意見取組状況に対する	アンケート結果によると、低学年のうちから「勉強がわかりにくい」と感じる生徒が多く、この状況を改善するためには学習の習慣を身につけさせる工夫が必要です。授業内容や進め方を見直し、生徒の理解度に応じた個別指導や家庭との連携を強化することで、学びの楽しさを感じさせることが重要と考えます。	縦割り班活動では、上級生と下級生の相互関係が定着しています。これは、生徒数が少ないからこそその上下の関係性に隔たりがない関係作りが形成できたと考えます。	避難してきた方々への支援ができるような訓練の実施をしてもらいたい。自ら考え動く子どもたちを育てていてもらいたい。	読み聞かせ。情報の交換もうまくできている。伝わりやすい情報公開をしてくれている。地域活動。子どもたちが取り組んだことがメディアに取り上げられたのは良かった。誇れることであると思う。
に取組する適切な意見の検証結果	生徒たちが主体的に学び続ける姿勢を身につけることが必要と考えます。教育の場は、生徒たちの将来に大きな影響を与える貴重な場所です。先生方の情熱と努力が彼らの未来を明るく照らすものになることを期待しています。	いずれの学年においても、生徒たちは素直に一生涯懸命取り組んでいる様子が伺えます。服装も問題なく、とても良い子どもが多いようにみうけられます。	現状考える災害に対しては、一定の効果はある。それを超える災害に対して想定してみても。	結果が結びついているので、引き続き取り組んでいただきたい。
改善年度に方法に向けての意見	アンケート結果から、保護者と生徒の間には学習の習熟度に対する考えの差が見られ、特に低学年でその傾向が顕著です。生徒、家庭、学校のコミュニケーションを強化し、共通認識を持てる環境整備が必要と考えます。	少人数での関係作りには優位性がありますが、大きな集団で同様の取り組みができるかは課題です。同様の関係作りができるよう、見守りが必要です。	・早寝早起き朝ごはんについては引き続きお願いします。 ・危機管理能力のある子どもを育ててほしい。 ・被災側だけでなく、被災された方への支援も行なって欲しい。 ・スマホの使い方。夜遅く起きている児童への指導は、引き続き行ってもらいたい。	・良い先生に来てもらえるのであれば、教育講演会は地域(こども園等)に声をかけてみてもよいのではないかな。 ・土曜開放の活用。もっと地域の方々に入ってもらいたい。

3 その他のご意見

- ・学校のことを話さない。話をしにくい環境にある。
- ・将来の夢を持っている。もっと夢を持っていて欲しい。
- ・家庭において、仕事の話をしない。ニュースを見ていない。社会のことを知る機会が少ない。
- ・塾に行っている子は、目標を持っているが、なかなか持てていない。

筆責: 芦原小学校 学校運営協議会